

パン、菓子製造業における荷姿の物を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労働 者規 模
2	8~9	工場内で、ミキサー（パンの生地を練る機械）からパン生地を取り出して、生地をねかすボックスに入れた時、ボックスが転倒して左足が挟まれた。	65	50~ 99
4	20~ 21	包材倉庫での棚卸作業中、ラックに二段積みされた上段の包材数量を確認する作業の際、本来ならば脚立等に乗って作業すべき所、下段にある包材を踏み台代わりにして作業を行い、足を滑らせて高さ約180cm上から落下し、右肩右腰を強打した。	43	30~ 49
4	9~ 10	工場内の通路で飴の入った板重をカゴ車からキャスターに積みかえた時、一番下の板重がキャスターにはまっておらず、それを直そうとしてキャスターと板重の間に左手の指を挟んだ。	18	50~ 99
5	16~ 17	材料が入った番重を持ち上げて機械の中に補充する時に手首を捻った。	41	100 ~ 299
6	6~7	タルトの製造ラインで、流れてくるタルトをケースに入れ台車にのせる作業をしている時に、タルトが溜まってしまい、焦って普段よりも多く持ってしまった状態で、左腕を痛めた。	46	500 ~ 999
6	11~ 12	当社工場2階の倉庫より、ダンボールを1階へ運ぶ際、階段の段差が見えずに足を踏み外して、右足首を骨折した。	43	1~9
7	11~12	工場一階、包材倉庫で入荷された弁当容器が入っているダンボール（1箱約6kg）を積んでいる際に、右手に大きな負荷がかかり、右腕を受傷した。	49	500 ~ 999
		ビニール袋に入ったチョコレートの再利用品を10kg入りにするため、台車からビ		500

7	13～ 14	ニール袋（14kg程度）を秤にのせる際、腰に違和感を感じたが、大事には至らないと自己判断し、報告をせずにそのまま通常の作業を継続した。	47	～ 999
7	6～7	製品をダンボールに手詰めするラインにて、作業場近くにダンボールのストックを積んでいた。組立前のダンボールを10枚ほど持ち、ストックの上に積もうとした際、普段より高く積もうとしたため、右手首を捻り、筋を痛めた。また、ダンボールの端を持っていたため、手首に過重な負荷がかかってしまった。	42	～ 9999
7	6～7	当社工場内のピロー（個包装）包装室内で、個包装機械のスイッチを入れたあと、個包装機械の横に置いてあった個包装後の飴を一時保管するための段ボール箱に足を取られ、横転して尻をついたとき、左足の付け根辺りを骨折した。	64	30～ 49
9	8～9	上記日時頃、工場内にて饅頭を蒸すのに並べる網（縦63cm横52cm重さ1.6kg）を空の状態70枚ほど重ね（高さ45cm）台車に載せ2人で運ぶ作業中、一人は台車をバックで動かし、被災者は対面して網が崩れないように両端を両手で支えていたが、身体のバランスを崩した時、網が5～6枚崩れてきて無理に抑えようとしたため、横に設置している饅頭スチーマー機と網との間に左手小指側を挟み骨折したものである。	61	10～ 29
10	14～ 15	包装工程の荷積み作業中に、別の作業員の動きに気づかず、ダンボール箱を受け取ろうとして、ラインに近づいた際、別の作業員が持っていたダンボール箱が左眼に当たり負傷した。	38	—
11	14～ 15	工場内製造1課調合部門で勤務中に、工場外のゴミ置き場まで台車に積んだゴミを捨てに向かっている途中、通路横に積んであった空の一斗缶が崩れ落ち、右ふくらはぎに一斗缶の開口が当たり、裂傷を負った。	36	100 ～ 299
12	2～3	仕上げラインで、番重を台車から下ろして品物をラインに流す作業を行っていたとき、右手を痛めた。	52	300 ～ 499
12	11～12	工場包装課2FのMA1号機（小箱に玉ガムを詰める工程）で、機械近くに積んであった小箱の入ったダンボール（約10kg）を作業台に載せるため、中腰で持ち上げたところ、バランスを崩して転倒し、床に左膝を強打し負傷した。	55	50～ 99

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html